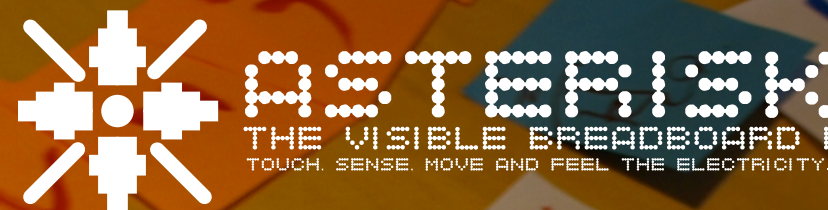


# 「電気がみえる」デバイスとソフトウェアの開発

電圧を色光によって可視化し、  
情報から実回路を動的に形成する  
ブレッドボードインターフェース

開発者：落合陽一（筑波大学情報学群情報メディア創成学類）



電気がみえない、つかめない。  
敷居の高さ、非直感性をなんとかしたい。

近年、フィジカルコンピューティングが活発になり、電気回路が身近になる一方でテクノロジーのブラックボックス化は極端に進んでいます。

回路がもし、手で描けたら。  
電気に触れて、その様子が見えたなら。

教育や研究の場において、今まで可視化されてなかった回路の様態をLEDの光によって可視化し、回路の構成を触れることで書き換えることができます。

電子の星の瞬く箱庭、  
人と情報とモノをつなげる鮮やかな光。

触ることで情報が書き変わり、情報が実回路という物質的特徴を書き換える。その様子は光によって表現される。人と情報とモノの新たなつながりがここにあります。

